

流域治水プロジェクト2.0

～流域治水の加速化・深化～

- 気候変動の影響により当面の目標としている治水安全度が目減りすることを踏まえ、流域治水の取組を加速化・深化させる。このために必要な取組を反映し『流域治水プロジェクト2.0』に更新する。

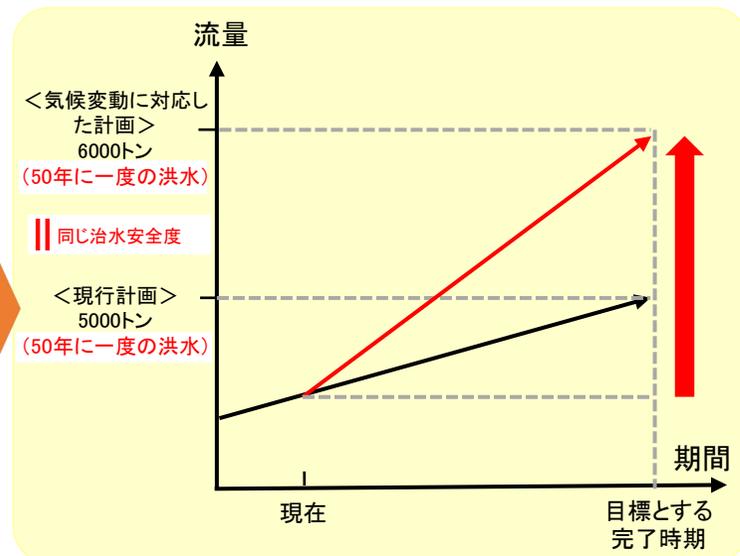
現状・課題

- 2℃に抑えるシナリオでも2040年頃には降雨量が約1.1倍、流量が1.2倍、洪水発生頻度が2倍になると試算
- 現行の河川整備計画が完了したとしても治水安全度は目減り
- グリーンインフラやカーボンニュートラルへの対応
- インフラDX等の技術の進展

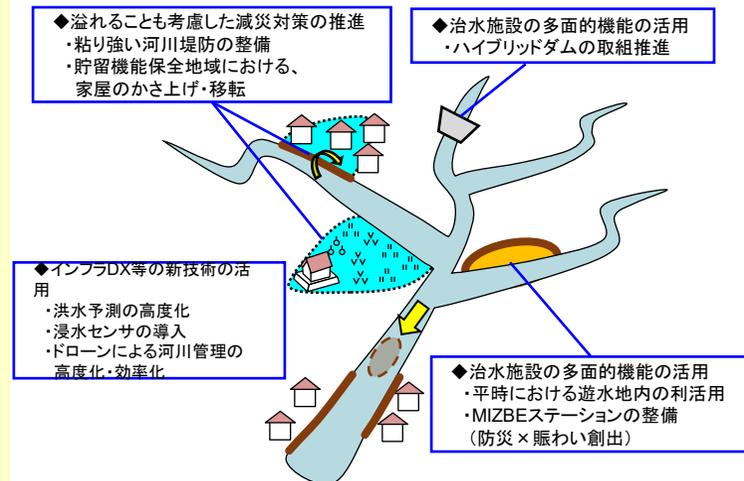
必要な対応

- 気候変動下においても、目標とする治水安全度を現行の計画と同じ完了時期までに達成する
- あらゆる関係者による、様々な手法を活用した、対策の一層の充実を図り、流域治水協議会等の関係者間で共有する。

必要な対応のイメージ



様々な手法の活用イメージ



| 気候変動シナリオ | 降雨量 (河川整備の基本とする洪水規模) |
|----------|-------------------------|
| 2℃上昇 | 約1.1倍 |

降雨量が約1.1倍となった場合

| 全国の平均的な傾向【試算結果】 | 流量 |
|-----------------|-------|
| | 約1.2倍 |

同じ治水安全度を確保するためには、
目標流量を1.2倍に引き上げる必要

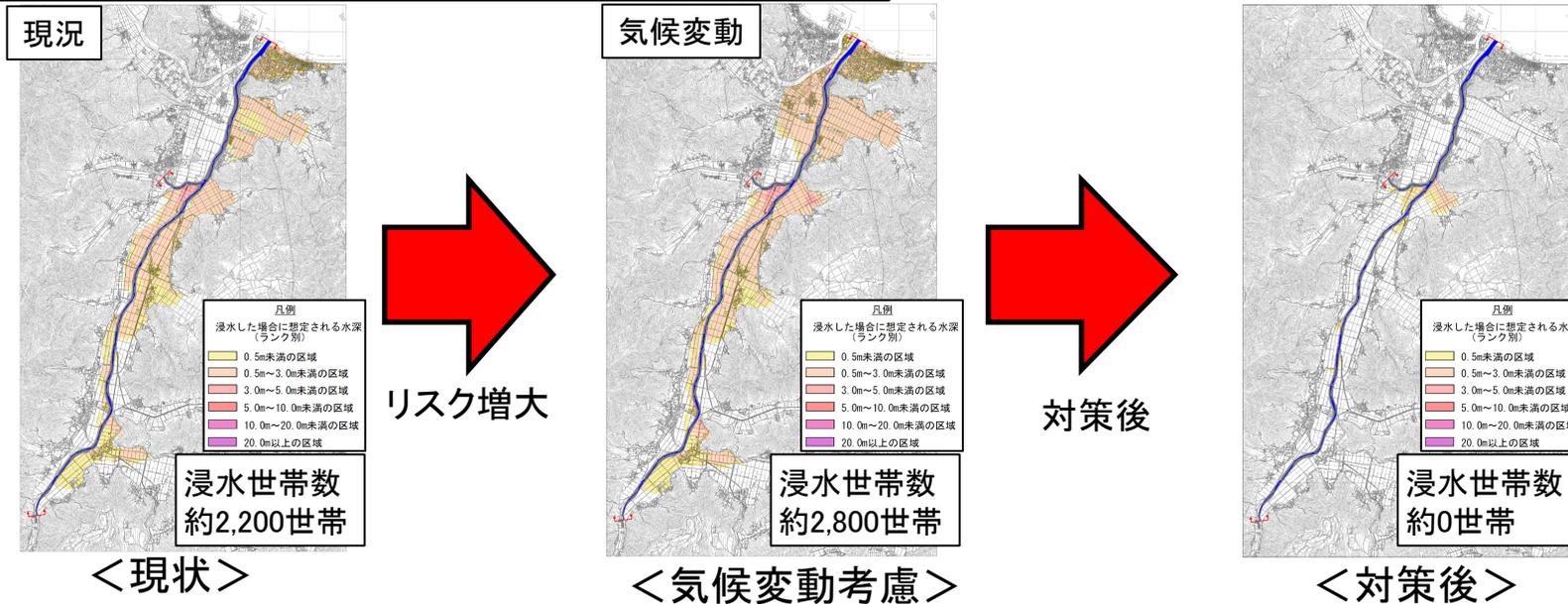
※現行の計画と同じ完了時期までに目標とする治水安全度を達成するため、
様々な手法を活用し、集中的に整備を進めることが必要

⇒現在の河川整備計画に基づく対策や流域における各取組を推進するとともに、気候変動を踏まえて追加で必要となる対策案の詳細については、更に議論を深めていく。

気候変動に伴う水害リスクの増大

○戦後最大規模の洪水に対し、気候変動の影響による降雨量増加を考慮した規模の洪水が発生した場合、北川流域では浸水世帯数が約2,800世帯（現況の約1.4倍）になると想定され、事業の実施により、浸水被害が解消される。

■気候変動に伴う水害リスクの増大



【目標①】
KPI: 浸水世帯数
約2,800世帯→
約0世帯

■水害リスクを踏まえた各主体の主な対策と目標

【目標①】気候変動による降雨量増加後の洪水規模に対する安全の確保

北川流域

| 種別 | 実施主体 | 目的・効果 | 追加対策 | 期間 |
|-----------------------|-----------------|-----------------------------|--------------------------------|-------|
| 氾濫を防ぐ・ 減らす | 国 | 約2,800世帯の浸水被害を解消 | 更なる河道改修 ・河道掘削 ・堰改築 | 概ね30年 |
| | 県 | 家屋浸水の解消、 農地等の浸水被害の軽減 | 更なる河道改修 | 概ね30年 |
| 被害 対象を 減らす | 流域の市・町 | 水災害ハザードにおける 土地利用・住まい方の工夫 | 立地適正化計画による 水害リスクの低い地域への居住誘導 | 概ね30年 |
| 被害の軽減・ 早期復旧・ 復興 | 国・県・市町・ 報道機関 | 県域全体の防災力向上 | ふくい県域タイムライン運用 | 概ね30年 |

【目標②】北川流域における内水被害の軽減

| 種別 | 実施主体 | 目的・効果 | 追加対策 | 期間 |
|---------------|------|-------------|--------------|-------|
| 氾濫を防ぐ・ 減らす | 国 | 外水位の低下 | 更なる河道改修 | 概ね30年 |
| | 県 | 外水位の低下 | 更なる河道改修 | 概ね30年 |
| | | 内水氾濫量の抑制 | 県有施設の貯留浸透対策 | 概ね30年 |
| | 小浜市 | 内水氾濫の浸水被害軽減 | ポンプ場や雨水渠の整備等 | 概ね30年 |

北川水系流域治水プロジェクト2.0

氾濫を防ぐ・減らす

- 気候変動を踏まえた治水計画への見直し
(2°C上昇下でも目標安全度維持)
 <具体の取組>
 - ・**気候変動を考慮した**河川整備計画に基づくハード対策
- 流域対策の目標を定め、
役割分担に基づく流域対策の推進
 <具体の取組>
 - ・田んぼダムの取組
 - ・森林整備 ・治山事業 ・砂防事業
- 既存ストックの徹底活用
 <具体の取組>
 - ・河内川ダムにおける事前放流等の実施

被害対象を減らす

- 溢れることも考慮した減災対策の推進
 <具体の取組>
 - ・霞堤の機能維持保全
 - ・土地利用一体型水防災事業
- 溢れることも考慮した減災対策の推進
 <具体の取組>
 - ・土地利用や住まい方の工夫

被害の軽減・早期復旧・復興

- 気候変動を踏まえた治水計画への見直し
(2°C上昇下でも目標安全度維持)
 <具体の取組>
 - ・**気候変動を考慮した**河川整備計画に基づくソフト対策
- 溢れることも考慮した減災対策の推進
 <具体の取組>
 - ・**内外水統合の水害リスクマップの作成**
 - ・水害リスクマップ(外水の浸水頻度図の作成)
- 既存ストックの徹底活用
 <具体の取組>
 - ・**ふくい県域タイムラインによる防災力向上**
- インフラDX等の新技術の活用
 <具体の取組>
 - ・**BIM/CIM適用による三次元モデルの積極的な活用**

※赤字: 流域治水プロジェクト1.0からの追加対策